若疑シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

3月20日
毎月5日、20日発行
第47号
購読料30円
半年分1,800円(〒共)

叛旗
共産主義者同盟

発行人 川崎文人
編集人 仲代真理
発行所 東京都新宿区百人町2—16—18 小林ビル105号室 叛旗社気付 共産主義者同盟『叛旗』編集委員会 TEL 03—362—0149 振替 東京 162866

3月25日 自衛隊さみだれ本土駐留阻止／基地撤去／ 立川闘争 反戦広場 PM1時

4月6日 69年4・28闘争公判 東京高裁 PM1時

労闘－学園戦線の組織的強化を図り

今春期闘争の圧倒的攻勢を準備せよ！

「党－大衆」運動の根底的止揚に向け 具体的・実践的な闘いを大担に切り拓け

国家暴力／「叛旗」職援署のみなさん／ベトナム戦争、世界通貨危機、それに対応する支配階級の矛盾的再編に連動されるように、いまもなお現代＝過渡期世界の崩壊の序曲は、「全面」政治の世界的激化をテーマに振りこみつつ、宿命ともいうべき危機へ「加速」しつつある。そしてそれは一方でわが革命党の自己の後退ともいうべき危機とその革命党の存在基盤をのっぴきならぬ深刻な危機として表出している。わが党が歴史的必然として、また全人民的課題として、革命的共産主義者同盟の旗揚げ以来、一貫して追求してきた「党－大衆」運動の根底的止揚に向けた具体的・実践的な闘いを大担に切り拓くことこそ、いまわれわれに課せられた最大の任務である。

日本革命運動の結節環は依然として国家問題である

❶革命運動の中軸的対象は、依然として権力問題であり、国家問題であることは、とりたてて言うまでもないことであろう。ベトナム戦争、和平、自民族の独立と統一を掲げ、世界一個国家関係の崩壊と拡大、ドル危機、ポンド危機、フラン危機と、世界通貨危機の深まりのもとで、米帝国主義の経済的基盤の動揺、ニクソン・ドクトリンの破産、米帝国主義の世界支配の危機的再編成、等々、現代＝過渡期世界の激動と流動化は、まさに革命と反革命の激突の時代の到来を告げている。

❷革命運動の中軸的対象は、依然として権力問題であり、国家問題であることは、とりたてて言うまでもないことであろう。ベトナム戦争、和平、自民族の独立と統一を掲げ、世界一個国家関係の崩壊と拡大、ドル危機、ポンド危機、フラン危機と、世界通貨危機の深まりのもとで、米帝国主義の経済的基盤の動揺、ニクソン・ドクトリンの破産、米帝国主義の世界支配の危機的再編成、等々、現代＝過渡期世界の激動と流動化は、まさに革命と反革命の激突の時代の到来を告げている。

❸何度も述べてきたように、沖縄闘争の意義は、復帰協運動の枠組を突破し、沖縄闘争の爆発的高揚へと転化させ、沖縄闘争を全国的に拡大し、本土闘争と結合することによって、沖縄闘争を日本革命の戦略的位置に据えかえることであり、沖縄闘争の世界性が日本の政治、社会闘争を規定しているからである。この点を逆から言えば、沖縄闘争を本土闘争と結合するということは、沖縄闘争を日本革命の戦略的位置に据えかえるということである。

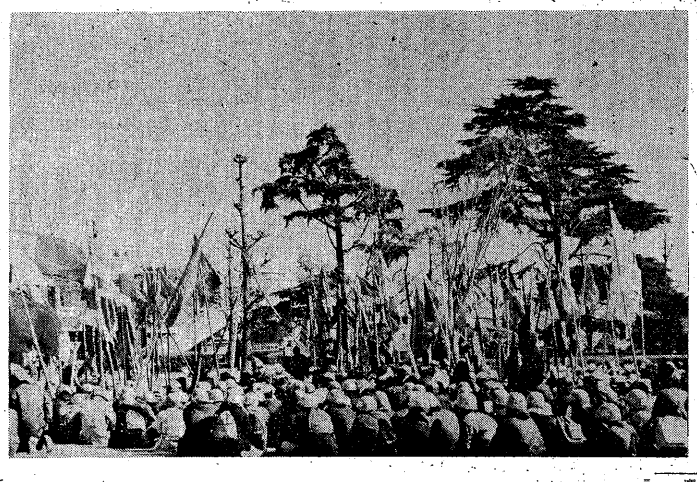
❹我々は、日本の革命、権力問題を主体的に取り扱うことから、次の二つの回路を措定するということを、繰り返し強調してきた。第一に、「沖縄－三里塚」戦略の内化、基本的意識的に取り扱うことである。第二に、日本革命運動の真の構造、日本の政治的・社会的共同性の真の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。「党－大衆」関係の転換とそが、「党－大衆」構造の矛盾拡大をもたらすことに自覚的であることである。

さて、我々は闘争や、実践が概念や、認識の裡につづまる事なく、それを突破し、止揚し、分断、孤立、再編、再結集過程への突入、党派、ノンセクト、ゲバルト、反戦、無党派化されているところの「党－大衆」関係の解体、あるいは、激流化がその幻想的対抗力を解体せしめ、国家権力の把握を目指すという、革命運動の基本的構造の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。

❺何度も述べてきたように、沖縄闘争の意義は、復帰協運動の枠組を突破し、沖縄闘争の爆発的高揚へと転化させ、沖縄闘争を全国的に拡大し、本土闘争と結合することによって、沖縄闘争を日本革命の戦略的位置に据えかえるということである。

❻我々は、日本の革命、権力問題を主体的に取り扱うことから、次の二つの回路を措定するということを、繰り返し強調してきた。第一に、「沖縄－三里塚」戦略の内化、基本的意識的に取り扱うことである。第二に、日本革命運動の真の構造、日本の政治的・社会的共同性の真の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。「党－大衆」関係の転換とそが、「党－大衆」構造の矛盾拡大をもたらすことに自覚的であることである。

さて、我々は闘争や、実践が概念や、認識の裡につづまる事なく、それを突破し、止揚し、分断、孤立、再編、再結集過程への突入、党派、ノンセクト、ゲバルト、反戦、無党派化されているところの「党－大衆」関係の解体、あるいは、激流化がその幻想的対抗力を解体せしめ、国家権力の把握を目指すという、革命運動の基本的構造の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。



3・6 三里塚第二次代執行阻止、東峰十字路闘争
第二回公判闘争へ六百余が決起

昨年12月12日第1回公判に続いて2回目を迎えた三里塚第二次代執行阻止、東峰十字路闘争公判は3月6日、総動員の県警機動隊一公安私服が取り巻く千葉地裁で行なわれた。公判は午前、午後の2回に分けて開かれ、青年行動隊を中心とする被告団の断固たる延内闘争と呼応して、県庁前の羽衣公園では、反対同盟農民、支援労学600余が圧倒的な支援闘争を展開した

我が反帝戦線70名はこの日最も組織された部隊として登場し、われわれの三里塚闘争に対する熱意を更に鮮明なものとしつつ、同時に、裁判闘争を巡る諸党派の混迷と的はずれな発言に対しては、われわれがこの間明らかにしてきた「裁判闘争」の具体的且つ戦略的諸内容の展開をもって応えたのである。（写真は羽衣公園における支援集会）2面に公判報告

「党－大衆」止揚の現段階と「沖縄－三里塚」戦略

加盟と脱退、我々は、日本の革命の主体的な変革主体の形成を三つの方向性として措定した。しかし、これら三つの方向性は、決して三つの並列的な関係ではない。我々は、依然として、「沖縄－三里塚」戦略の内化、基本的意識的に取り扱うことから、次の二つの回路を措定するということを、繰り返し強調してきた。第一に、「沖縄－三里塚」戦略の内化、基本的意識的に取り扱うことである。第二に、日本革命運動の真の構造、日本の政治的・社会的共同性の真の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。「党－大衆」関係の転換とそが、「党－大衆」構造の矛盾拡大をもたらすことに自覚的であることである。

さて、我々は闘争や、実践が概念や、認識の裡につづまる事なく、それを突破し、止揚し、分断、孤立、再編、再結集過程への突入、党派、ノンセクト、ゲバルト、反戦、無党派化されているところの「党－大衆」関係の解体、あるいは、激流化がその幻想的対抗力を解体せしめ、国家権力の把握を目指すという、革命運動の基本的構造の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。

❶これまで国家の構造を規制させてきた、左翼の方法も、これと同一であった。如何に闘ったとしても70年代後半の日本階級闘争の高揚を通じた敵国は、ベトナム革命勝利の人民戦争であり、沖縄返還という法を基礎とするということそのものであった。日本の革命党派が「国際主義」や、連帯を口頭禅にした時、それはベトナム人民や、沖縄の大衆の孤絶と闘いに、日本の階級闘争の基礎と後退を認めることであり、つまりは、敗北的に、ベトナム戦争、沖縄闘争の世界性が日本の政治、社会闘争を規定しているということの裏返しであったのである。如何なる革命党派が「国際主義」や、連帯を口頭禅にした時、それはベトナム人民や、沖縄の大衆の孤絶と闘いに、日本の階級闘争の基礎と後退を認めることであり、つまりは、敗北的に、ベトナム戦争、沖縄闘争の世界性が日本の政治、社会闘争を規定しているということの裏返しであったのである。如何なる革命党派が「国際主義」や、連帯を口頭禅にした時、それはベトナム人民や、沖縄の大衆の孤絶と闘いに、日本の階級闘争の基礎と後退を認めることであり、つまりは、敗北的に、ベトナム戦争、沖縄闘争の世界性が日本の政治、社会闘争を規定しているということの裏返しであったのである。

❷革命運動の中軸的対象は、依然として権力問題であり、国家問題であることは、とりたてて言うまでもないことであろう。ベトナム戦争、和平、自民族の独立と統一を掲げ、世界一個国家関係の崩壊と拡大、ドル危機、ポンド危機、フラン危機と、世界通貨危機の深まりのもとで、米帝国主義の経済的基盤の動揺、ニクソン・ドクトリンの破産、米帝国主義の世界支配の危機的再編成、等々、現代＝過渡期世界の激動と流動化は、まさに革命と反革命の激突の時代の到来を告げている。

❸何度も述べてきたように、沖縄闘争の意義は、復帰協運動の枠組を突破し、沖縄闘争の爆発的高揚へと転化させ、沖縄闘争を全国的に拡大し、本土闘争と結合することによって、沖縄闘争を日本革命の戦略的位置に据えかえるということである。

❹我々は、日本の革命、権力問題を主体的に取り扱うことから、次の二つの回路を措定するということを、繰り返し強調してきた。第一に、「沖縄－三里塚」戦略の内化、基本的意識的に取り扱うことである。第二に、日本革命運動の真の構造、日本の政治的・社会的共同性の真の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。「党－大衆」関係の転換とそが、「党－大衆」構造の矛盾拡大をもたらすことに自覚的であることである。

さて、我々は闘争や、実践が概念や、認識の裡につづまる事なく、それを突破し、止揚し、分断、孤立、再編、再結集過程への突入、党派、ノンセクト、ゲバルト、反戦、無党派化されているところの「党－大衆」関係の解体、あるいは、激流化がその幻想的対抗力を解体せしめ、国家権力の把握を目指すという、革命運動の基本的構造の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。

日本革命運動の結節環は依然として国家問題である

❶革命運動の中軸的対象は、依然として権力問題であり、国家問題であることは、とりたてて言うまでもないことであろう。ベトナム戦争、和平、自民族の独立と統一を掲げ、世界一個国家関係の崩壊と拡大、ドル危機、ポンド危機、フラン危機と、世界通貨危機の深まりのもとで、米帝国主義の経済的基盤の動揺、ニクソン・ドクトリンの破産、米帝国主義の世界支配の危機的再編成、等々、現代＝過渡期世界の激動と流動化は、まさに革命と反革命の激突の時代の到来を告げている。

❷革命運動の中軸的対象は、依然として権力問題であり、国家問題であることは、とりたてて言うまでもないことであろう。ベトナム戦争、和平、自民族の独立と統一を掲げ、世界一個国家関係の崩壊と拡大、ドル危機、ポンド危機、フラン危機と、世界通貨危機の深まりのもとで、米帝国主義の経済的基盤の動揺、ニクソン・ドクトリンの破産、米帝国主義の世界支配の危機的再編成、等々、現代＝過渡期世界の激動と流動化は、まさに革命と反革命の激突の時代の到来を告げている。

❸何度も述べてきたように、沖縄闘争の意義は、復帰協運動の枠組を突破し、沖縄闘争の爆発的高揚へと転化させ、沖縄闘争を全国的に拡大し、本土闘争と結合することによって、沖縄闘争を日本革命の戦略的位置に据えかえるということである。

❹我々は、日本の革命、権力問題を主体的に取り扱うことから、次の二つの回路を措定するということを、繰り返し強調してきた。第一に、「沖縄－三里塚」戦略の内化、基本的意識的に取り扱うことである。第二に、日本革命運動の真の構造、日本の政治的・社会的共同性の真の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。「党－大衆」関係の転換とそが、「党－大衆」構造の矛盾拡大をもたらすことに自覚的であることである。

さて、我々は闘争や、実践が概念や、認識の裡につづまる事なく、それを突破し、止揚し、分断、孤立、再編、再結集過程への突入、党派、ノンセクト、ゲバルト、反戦、無党派化されているところの「党－大衆」関係の解体、あるいは、激流化がその幻想的対抗力を解体せしめ、国家権力の把握を目指すという、革命運動の基本的構造の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。

春期闘争へ向けた闘いの総括と基調

「党－大衆」止揚の現段階と「沖縄－三里塚」戦略

加盟と脱退、我々は、日本の革命の主体的な変革主体の形成を三つの方向性として措定した。しかし、これら三つの並列的な関係ではない。我々は、依然として、「沖縄－三里塚」戦略の内化、基本的意識的に取り扱うことから、次の二つの回路を措定するということを、繰り返し強調してきた。第一に、「沖縄－三里塚」戦略の内化、基本的意識的に取り扱うことである。第二に、日本革命運動の真の構造、日本の政治的・社会的共同性の真の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。「党－大衆」関係の転換とそが、「党－大衆」構造の矛盾拡大をもたらすことに自覚的であることである。

さて、我々は闘争や、実践が概念や、認識の裡につづまる事なく、それを突破し、止揚し、分断、孤立、再編、再結集過程への突入、党派、ノンセクト、ゲバルト、反戦、無党派化されているところの「党－大衆」関係の解体、あるいは、激流化がその幻想的対抗力を解体せしめ、国家権力の把握を目指すという、革命運動の基本的構造の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。

「党－大衆」関係の今日的位相

それでは、この様な情況を規定する「党－大衆」関係の今日的な位相はどの様なものとしてあるのだろうか。

❶まず、第一に、八・全闘以来の闘いの中で、党派、ノンセクト、ゲバルト、反戦、無党派化されているところの「党－大衆」関係の解体、あるいは、激流化がその幻想的対抗力を解体せしめ、国家権力の把握を目指すという、革命運動の基本的構造の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。

「党－大衆」関係の今日的位相

それでは、この様な情況を規定する「党－大衆」関係の今日的な位相はどの様なものとしてあるのだろうか。

❶まず、第一に、八・全闘以来の闘いの中で、党派、ノンセクト、ゲバルト、反戦、無党派化されているところの「党－大衆」関係の解体、あるいは、激流化がその幻想的対抗力を解体せしめ、国家権力の把握を目指すという、革命運動の基本的構造の把握と、それに基づく革命の戦略的・戦術的構造の中から、革命の現実性をつかみ出すことである。

我々が昨年提起した如く、ドル—国際通貨体制の泥沼的危機の進行は、早くもスミソニアン体制を崩壊せしめ、先進国列強総体を激動の渦に巻き込んでいる。米国内貿易赤字収支を国際支配通貨ドル体制の手直しで克服しえるかの如く錯覚した昨年のニクソン声明は今や日本・ECの固定レートの崩壊の過程で破産したのである。周知のように日本ブルジョアジーは再度実質的円切り上げに自らの妥協と延命の道を切りつなぎ、それに対応する国際的戦略を一切持つことなく、ただ内外金融ブルジョアジーを筆頭に「利ざや」獲得に狂奔させているのみである。そして内部的には「国内需要の喚起」政策をとり、国家財政予算の強度な肥大化により産業ブルジョアジーの保護、中小企業＝低生産性部門の切り捨て、インフレの促進等、解決不能な諸矛盾を累積している。国内貨幣の超過剰は独占資本の土地・米・大豆・生糸・鉄材・牛肉・木材・株の買占めを生み出し、一方インフレ予算は国鉄運賃・健康保険料の大幅切上げをたくらみ、諸物価への波及は必至である。将しくそれは労働者大衆にその全責任を転嫁し、より生産—流通—生活総体の強収奪—抑圧を強化せんとしているに他ならないのだ。同志諸君、労働者諸君、我々はまずこのブルジョア共と正面切って闘わねばならない独占とみに金融—流通ブルジョア共にこの汚れ切った、末期的なそして最も労働者大衆をなめ切った強収奪策を粉砕せねばならない。労働者諸君、闘争で始り、闘争に自らを痛め六畳たらずの生活で暮れてゆく＜日常＞はブルジョア共を根本から震撼せしめる武器であり、我々の全社会的諸力を階級へ凝縮せしめる一つの大きな力である。春闘を闘い抜くことと、相対的独自に我々は金融—流通ブルジョア共のこの悪らつな収奪を全面暴露し闘い抜かねばならない。

（一）社会経済闘争を如何に把握し闘うか、

我々はこの間全国政治新聞で提起した来た社会運動の原基を政治的にこう明らかにする。

（1）我々はブルジョワ共と激突する労働者大衆の社会経済……

周知のように経済的闘いとは①まず労働力の販売のよりいっそう有利な条件を獲得するための②労働条件と生活状態の改善のための③資本との集団組織的闘いであり……

指適したとき、その自然必然性ゆえに、不可避的であり社会的諸力総体・階級的契機を内包していることにこそ注目すべきである。

……られ社会闘争・大衆闘争を指導しえなかったのは次の点による。総評組合主義政治のレベルに自らの革命論を対置した、つまりせばめ落し込めて批判して来たからである。また彼等の経験主義・企業主義に政治の価値も対置したが、それは事実主義を止揚するものではなかった。

……

春闘における階級的契機とわれわれの過渡的任務

（二）今春闘を巡る情勢とわれわれの課題

……

—砂川現闘報告—
反帝戦線現闘団
「直接—実力—持続」の旗の下に闘う戦線を結集し
進駐阻止—基地撤去へ更に前進せよ

全国の叛旗読者諸君、全国の反帝戦線諸君！　昨年12月27日の自衛隊立川基地北部方面航空隊強行進駐に対する阻止闘争以降も我々現闘団と反帝戦線行動隊の諸君と反帝戦線は断固として闘いを推進していることをまず第一に現闘団から報告しておきたい。自衛隊進駐阻止から基地撤去を射程にせざるを得ない状況を立川では迎えている。自衛隊の……

……

3・6公判報告

退廷抗議に機動隊を導入
権力—裁判所一体となった弾圧裁判の実体を徹底的に暴露し粉砕せよ〜

第3回公判は4月17日に

……分与えたつもりである。今西の負傷は退廷命令の執行の結果と一定思われるが退延はやむを得ない。あの混乱では機動隊の導入はやむを得ない。」と居直った。問題の所在が、法定の原理原を自ら破ってゆかねばならない人定の写真認定によっていることをごまかそうとしたからであり、遠藤の「犯罪人」呼ばわりという、三里塚闘争に対するあるイメージを共有しているが故に、また彼の職能が、法の破たんど、持続のしかたを三里塚闘争によって粉砕されるという直感を嗅ぎ取ったが故に、法的疎遠性（我々とも疎遠であるしまた新谷の理念からも疎遠である）「法」を切り取り、我々に対峙させたのである。

更に新谷・遠藤を徹底的に追求せよ。